

崇神天皇の御代に「飛鳥」の姓を賜り、2000年にわたって飛鳥坐神社を代々守ってきた飛鳥家。現在、禰宮として仕える飛鳥朝子さんに、300年以上続く神事を継承していく思いを伺いました。

# 天下の奇祭「おんだ祭」を 守り継ぐ女性神職



飛鳥朝子さん。明日香村で生まれ育つ。伊勢や東京で20年近く暮らした経験を経て、あらためて村の魅力を再認識したそう。



飛鳥坐神社（高市郡明日香村飛鳥708）

古代から神石信仰が盛んで、なかでも「むすびの神石」と呼ばれる陰陽石は、夫婦和合や子宝、良縁などに神徳があると篤い信仰を集めます。「子宝に恵まれることは、昔の人にとっては神祕。神様の力と信じ、それが陰陽石信仰につながっていったのではないかと思います。」

飛鳥朝子さんは、現87代宮司・飛鳥弘文さんの娘。次の88代宮司を継ぐことが決まっています。飛鳥坐神社の長い歴史の中で女性が宮司に就くのは初めてのこと。「とても重く受け止めています。プレッシャーはありますが、応援してください！」とにっこり。周囲をばつと明るく

照らす、朝陽のような笑顔がこぼれます。おんだ祭は五穀豊穣や子孫繁栄を祈る大祭。神事は二部構成で、一部が神職による祝詞奏上や天狗・翁・牛によるお田植植事など。二部はお多福が加わり、子孫繁栄を願う夫婦和合の儀式を演劇仕立てで繰り広げます。

その様子がおもしろおかしく、参拝者から笑い声が絶えませんが、夫婦和合をリアルに演じることが珍しいことから「天下の奇祭」と呼ばれるようになりました。コロナ禍を経て4年ぶりに通常齋行となった今年2月4日、朝子さんは女性の神職として初めて神楽殿に上がりました。「あのとき、皆様にすんなりと自然に受け入れていただいた気がしました」とほっとした表情で振り返ります。「お祭りの締めくくりとして宮司が挨拶をしたあと、参拝者の皆様から温かい拍手が自然と沸き起つたんです。その拍手が待っていたよ」「無事に齋行できてよかったね」「これからもがんばりましょう」というメッセージのようでもとても胸に響きまし

た。このお祭りを続けていかなければと、そのとき心に強く誓いました。平成30年に明日香村に戻ってくるまで、12年東京で暮らしていた朝子さん。「生き方、考え方が多様化している現代社会では、五穀豊穣や子孫繁栄を願うお祭りといってもピンとこない方もいらっしゃると思います。五穀豊穣や子孫繁栄とは、豊かさや繁栄を願うこと。感謝の気持ちを忘れない心の豊かさを、お一人おひとりを持てるよう、私も神職としてできることを爾々と積み重ねていきます。日々の祈りやお祭りを通して、神社が皆様の心の拠り所として存在できるならとても嬉しいですね。」

## TOPICS

江戸時代から伝わる「鑄造大神鏡」。直径122cm、厚さ6cm、重量260kgあり、最近の研究結果で日本一大きい鑄造の神鏡だとわかりました。現在建て替え工事中の参集殿が完成後、鏡の間に安置される予定です(令和9年頃完成予定)。授与所では「鑄造大神鏡」の刺繍を施した、朝子さん考案の可愛い刺繍御朱印の授与も行っていきます。



上)「おんだ祭」。毎年2月の第一日曜日に齋行される西日本屈指の奇祭。お祭りを支える「まつり保存会」は、30年ほど前に地元有志らによって発足。「興味ある人は気軽に飛び込んでもらえたら」と朝子さん。  
下)天狗や鬼がさら(竹の棒を割いて作ったもの)で参拝者のお尻を叩いて回る厄除け神事が名物。「子どもの頃は叩かれるのが怖くて、全速力で走って逃げていました(笑)」。

## 「飛鳥・藤原まるごと博物館」検定合格への道 最年少合格者のマイ勉強法



西脇海宣さん(右)とお母様。当時12歳で小学6年生。親子揃って合格!(検定会場にて令和6年1月撮影)。

第1回検定初級編を受検し、当時最年少の12歳で合格した西脇海宣さん。大の古墳好きでもある西脇さんに、検定の感想や勉強法などを聞いてみました。検定を受けようと思った理由は? 何回も飛鳥へ行って、飛鳥の歴史が好きだからです。合格してホッとしました(笑)。

検定に向けてどんな勉強をしましたか?

当時中学受験だったので、公式テキストはあまり読めませんでした。ひたすら里中満智子先生の「天上の虹」を読み込みました。飛鳥の古墳や石造物についてはもとから詳しくかったです。

検定の問題は難しかったですか?

難しかったです。特に民俗、伝承の分野が難しかったです。

問題のなかで

予想外のものがありましたか?

「御井敬三」や「あすかオーナー制度」はまったく予想してませんでした。

これから受検される人にアドバイスがあれば教えてください。

「天上の虹」は絶対に読んだ方がいいですよ。



第2回「飛鳥・藤原まるごと博物館」検定を令和6年12月14日に開催します。今回は第1回の初級編合格者が受検できる中級編も同時開催。チャレンジお待ちしています!(申込締切10/31)

### 過去問に挑戦!(第1回初級編の60-64問目)

飛鳥の風景を守りたいという鍼灸師・御井敬三の思いはどの首相に届けられたか?  
ア.吉田茂 イ.岸信介 ウ.池田勇人 エ.佐藤栄作

四神図のうち高松塚古墳の壁画に確認できなかったものはどれか?  
ア.玄武 イ.朱雀 ウ.青龍 エ.白虎

※正解は古都飛鳥保存財団のHPをご覧ください。

飛鳥で好きな名所はどこですか? 飛鳥宮跡です。当時の政治の中心地が保存されていることが素晴らしいです。広大な風景からも古代の風を感じます。

飛鳥が好きな理由は何ですか? 飛鳥が好きな理由は、飛鳥の歴史が好きだからです。合格してホッとしました(笑)。



小学校時代、友達と古墳部を結成。各地の古墳を巡り、その魅力をまとめた会報誌「古墳関記」を自作・発行していました。

## お知らせ News

### 高松塚壁画館で 企画展開催!

当館では毎年夏休み期間中、パネル展を開催しており、2024年は「牽牛子塚古墳 今昔物語」と題して時代ごとに同古墳の記録を紹介しました。今後も季節ごとに企画展を実施しますので、楽しみに!



牽牛子塚古墳

## 事務局より Message

### 「飛鳥びと」がリニューアル!

今号からページ数を6ページに増やし、誌面も一新。飛鳥の魅力を多彩な角度から深掘りし、ますます飛鳥が好きになる冊子を目指します。引き続きご愛顧のほどよろしくお願いいたします。(事務局一同)

## 活動報告 Activity Report

### 飛鳥応援大使主催 「凧あげ大会」を実施

令和6年1月21日、応援大使主催の初イベント「凧あげ大会」を実施しました。親子で凧を作り、石舞台公園で凧あげをしたのですが、皆さん、凧を少しでも高くあげようと一生懸命走っておられました。各賞の発表や商品贈呈、吉野本葛「天極堂」さんによる葛湯振る舞いも楽しんでいただけた様子。今回は令和7年1月に実施予定です。乞うご期待。



皆さん、凧に思い思いの絵を描いておられました。



発行・お問合せ 公益財団法人 古都飛鳥保存財団

〒634-0138 奈良県高市郡明日香村大字越13-1 TEL:0744-54-3338 FAX:0744-54-3638 E-mail:info@asukabito.or.jp

編集制作 / 合同会社EditZ

※本誌の記事、写真の無断複写・転載を禁じます。※本誌記載内容は2024年9月現在のものです。



公式HP



公式 Instagram

KOTO\_ASUKA

# 飛鳥びと

2024年  
秋・冬号  
No.19

Renewal

p2●スペシャルインタビュー

## 飛鳥を描き続ける日本画家 鳥頭尾 精

p3●令和あすか塾(特別寄稿) 岡林孝作

唐の山陵制度と奈良時代の山陵  
「非・古墳化」の画期

p4●飛鳥の若びと

地元インスタグラマー  
あすかっこちゃん

p5●飛鳥の継ぎびと

天下の奇祭「おんだ祭」を  
守り継ぐ女性神職



「古宮遺跡」写真 / 上山好庸



鳥頭尾精さんは、飛鳥に暮らしながら70年にわたって飛鳥の風景を描いてきた生粋の飛鳥びと。92歳の今もなお創作意欲を掻き立てる飛鳥の魅力をお聞きしました。

第49回創画展2022に出展された作品「あすか夏」。



# 飛鳥を描き続ける日本画家

## 鳥頭尾精



奈良や京都を描いてきた「古都シリーズ」があり、今手がけている飛鳥は4年目。「今秋に出品し終えたら次はどのような空に興味があるから飛ぶ鳥だけの空間ができそうな予感」と鳥頭尾さん。

### 飛鳥固有の魅力とは何でしょうか？

飛鳥京のそばで生まれ、藤原京のそばで中高時代を過ごし、京都の美術大学で日本画を学びました。のちに奈良高校の教師となり、奈良の都にもどる。さらに京都の大学に19年間勤めるなど、日本の古都を行ったり来たり。とても幸せでした。やはり古都が南北に並ぶ紀伊半島の風土は、絶品ですね。なかでも最初の都がここ飛鳥です。藤原京・平城京・平安京の原形は飛鳥にあると思うんです。紀伊半島のど真ん中でまさに奥座敷。当時の人はやっぱりいい場所を見定めていますね。

### 飛鳥で好きな場所はどちらですか？

古墳ですね。当時力を持っていた人たちがいい場所に造っているから、今見てもいいロケーションなんです。特に石舞台古墳は最高。あの場所に立つと、四方の景色がいいこと、高所にあつて開かれていることがよくわかります。それと今は地下に埋もれてしまっている遺跡も好きです。絵を描く立場としては、見えないものもイメージで広げられますからね。



題字のために揮毫してくださった書の数々。「まず麻紙に書いてから唐紙に書いたんですが、唐紙の方が気持ちよく抑揚しました。文字がうごめくだけで波長もたくさん絡んで、表情に漂いがある気がします」。

### 今回「飛鳥びと」の新しい題字を揮毫いただきました。

どんな思いを込めましたか？

飛鳥のもつ伝統的な風合いや美的な世界。そんなイメージがあったので、都の跡として風格のある書体を意識しました。文字の大きさを変えてみたり、紙質・筆・墨を変えてみたり。墨の滲みによって文字の表情も違うから、延々と書き続けたんですけど、ほんとに決まらなかつたの(笑)。絵もそうですが、最初は表情が硬く出てくるんです。でも繰り返し書いていくうちに作者の気持ちも乗ってきて、技術的にもなめらかになるんですよ。

### 絵の描き方は、昔と今で変わりましたか？

画業70年ですが、若いときの絵と違っていて省略をするようになりました。長く生きられた他の画家さんも、自分と同じような流れやリズムで絵が省略されています。長生きの魅力はそこかなと思います。だからちよつとも長く生かされたら、もっとええのが出てきそう。もしも100歳になったら、もっと絵が変わるかと思っています。

## 令和あすか塾 《特別寄稿》

# 唐の山陵制度と奈良時代の山陵 「非・古墳化」の画期

### 天皇陵の「非・古墳化」

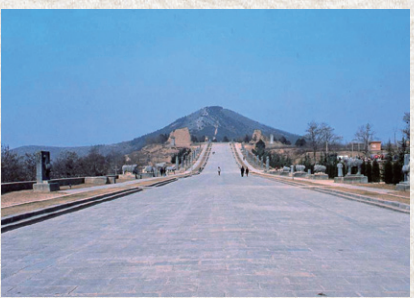
中国で隋が589年に南北統一を達成し、さらに618年に強力な唐帝国が成立したことは、東アジア世界の情勢を大きく変化させた。前後して、わが国でも400年近く続いた古墳時代が終わり、飛鳥時代(592~710)に移行する。飛鳥時代の約100年間は、東アジア情勢の変化に連動して、長く続いた古墳の時代を脱却し、中国に倣った律令国家の時代へと日本列島社会が大きく動いた変革期であった。



中尾山古墳



元明天皇陵 1998年撮影



唐の山陵(乾陵)1998年撮影

城京の建設は、律令国家体制の体現ともいべき都城制の完成を意味する。同じ頃、天皇陵も古墳から古墳ならざるものへと変化を遂げる。古墳に葬られた最後の天皇は慶雲四年(707)に亡くなった文武天皇である。近年の発掘調査成果により、明日香村にある中尾山古墳を文武天皇陵に比定する考え方が最有力である。

### 遺詔そのままの元明天皇陵

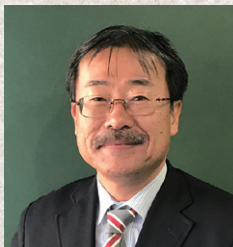
続く元明天皇は文武天皇の母にあたる。幼少であった孫の首皇子(後の聖武天皇)の成長を期して即位し、平城遷都(710年)の後、養老五年(721)に没した。「続日本紀」が記す元明天皇の遺詔は、「朕

が崩じた後は、大和国添上郡藏宝山の雍良岑にカマドを作て火葬せよ」、「山を掘鑿してはならない。ただイバラを刈つて開いただけの場所に葬れ。その場所に常緑の木を植え、刻字の碑を立てよ」というものであった。徹底した儉約、薄葬の理念にもとづき、伝統的な古墳の造営を明確に否定し、自然の山をそのまま陵とせよ、との主旨である。

### 薄葬の理想と現実

「続日本紀」によれば元正天皇、大皇太后藤原宮子(聖武天皇生母)、聖武天皇、光明皇后の山陵もすべて元明天皇陵と同じ「佐保山」の一角にあり、同様に自然の山を利用したと考えられる。私は、自然の山をそのまま陵とする奈良時代の山陵の思想は、唐の山陵制度に倣ったものであるうと考えている。第二代皇帝太宗によって始められた唐の山陵制度は、「因山為陵」すなわち自然の山を陵とし、墳丘を

造らない。その思想的背景には、民を慈しむ天子の徳としての儉約、薄葬の考えがある。



奈良県立権原考古学研究所 岡林 孝作 1962年大阪府生まれ。筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科で考古学を専攻。博士(文学)。前奈良県立権原考古学研究所副所長(兼)附属博物館長。現在、同研究所学術アドバイザー。主な著書は「器と信仰—東アジアの舍利荘嚴をめぐる美術史—考古学からのアプローチ」(共著、勉誠社、2024年)など。

ところが、唐の歴代皇帝が造営した山陵の実態は、自然の山を利用してはいるが、薄葬とはほど遠いものであった。元明天皇と同じ頃に没した玄宗の父・睿宗の山陵は、実に総延長約13kmにおよぶ築地堀によって取り囲まれている。巨大な土木建設工事を伴う山陵の造営は、次第に唐の国家財政を圧迫するようになる。薄葬の理想を標榜しながら、唐皇帝陵がその理想を実現することはなかったのである。

理想と現実はいさば真逆であることがある。唐皇帝陵の現実はいさばその典型であるが、元明天皇は唐から学んだ理想に従って徹底した薄葬を実践した。飛鳥時代の変革期を経て、新たな時代のスタートを切った当時の日本人の、清新な若々しい精神を感じる。元明天皇陵が歴史的な転換点をもたらすものであったことは、その後の人々にも記憶されていた。平安時代に編纂された「扶桑略記」は、元明天皇が遺詔により葬礼を設けなかったことを記した上で、「これより以後、高陵を作らず」と注記している。

## 飛鳥の若びと

### 地元インスタグラマー「あすかっちゃん」

## 飛鳥の空気、ゆったり流れる時間、村人のあたたかい人柄が好き。

風そよぐ緑の棚田、のどかで静かな村の屋下がり、心づくしの地元グルメ。飛鳥の日常風景を20代の爽やかな感性で切り取り、インスタグラムで発信するあすかっちゃん。20~30代を中心に人気で「投稿を見て飛鳥に来ました!」という声をたくさん聞きます。

あすかっちゃんは生まれも育ちも明日香村。大学卒業後に就職するも、観光の仕事に携わりたく強く思うようになり退職。時間ができたこともあって地元をいろいろ巡ったそう。「よく稲刈りに行ったんですが、やっぱり飛鳥っていいところだなあって。友達に話したら、そんなに飛鳥が好きやったら飛鳥専用のインスタ作ったら?って。そこからです、インスタ始めたのは」。

かつて飛鳥のインスタといえば遺跡や古墳が多くてシブめでしたが、あすかっちゃんの写真や動画はナチュラルで軽やか。「若い人にも来てほしいなと思って。景色はもちろん、食べ物もマストです(笑)」。

今年3月、「明日香村のためになることをしたい」とアスカイロを起業。村内の事業者のHPやパンフレット写真、家族写真の撮影、インスタ支援などを積極的に展開。「飛鳥をこの先一緒に守っていきたくて思っている方が増えたら嬉しい」。そう語る目は力強く、輝いています。



撮影協力 岡寺



- 1)「あすかっちゃん」こと辻本一帆さん。アスカイロ代表。フォトグラファー、ビデオグラファー、インスタアドバイザー、飛鳥応援大使。
2) 橋寺の大銀杏。黄色の絨毯がふわふわで、毎年楽しみにしています。
3) La ville〜都〜のショートケーキ風パフェ。ビジュアルが良すぎて女性は大変大好きだと思います!
4) 岡寺の手水舎。ピー玉が本当にきれいで紅葉が映えます。



あすかっちゃん公式Instagram ASUKAKKOCHAN

### 飛鳥と「万葉集」のかしき葉のゆ言

## トブトリと言えは?

飛鳥の明日香の里を置きて去なば君があたりは見えずかもあらむ

(巻一七)

明日香村野口の天武・持統天皇陵の近くに來ると、この歌を思い出します。

明日香の里を後にしていったならば、あなたのあるあたりを目にすることができなくなってしまうだろうか、という歌です。題詞には和銅三年(710)平城宮へ遷る時の歌とありますが、注には太上天皇(持統天皇)の御製歌ともあります。持統天皇は703年に崩御したので、生前の作とすれば「君があたり」は天武天皇陵を指すかといわれます。

当時はまだひらがなもカタカナもなかったため、歌も外来の文字であった漢字を利用して「飛鳥明日香能里乎置而伊奈婆」というように書き記されました。トブトリは地名アスカを修飾

天武・持統天皇(繪原大内陵)。天武天皇のために築かれましたが、後に亡くなった持統天皇が合葬されています。

